

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

F S（実行可能性）評価結果（公表用／ハード分野）

番号	F S 研究名	研究代表者	評 価
29-9	リモートセンシング技術を活用した道路土構造物の維持管理の効率化に関する研究開発	東京大学 教授 古関 潤一	B

<研究の概要>

リモートセンシング技術（合成開口レーダー[SAR]）を活用し、広域の道路土構造物の変状（軟弱地盤・スレーキング材料による長期沈下、アンカーのり面・深礎杭の変状、管理外の土石流・地すべりなど）について、過去に遡ってデータベースを作成することにより、劣化しつつある道路土構造物の性能・対策優先度を評価し、道路施設の点検・維持作業の効率化を図る

<FS 評価>

FS 研究により成果の見通しを一定程度示すとともに、研究結果を踏まえた研究計画を示していることから、新規研究として採択することが妥当と評価する。なお、実施にあたっては指摘事項に留意するとともに、現場での実用性が得られるよう十分に配慮して進めていただきたい。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

1. 実用的精度が得られるのか、適用方法との関連を整理するとともに、精度に影響を与える因子の特定が必要である。
2. 要素技術としての観測精度を向上させるとともに、グランドアンカーの不具合など、道路構造物の管理の観点での成果を取りまとめていただきたい。
3. 地盤工学的考察について、前倒しして検討されることを期待する。

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。